

当面のスローガン

- 「人権侵害救済法」制定を!
- 狭山再審闘争勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局
 〒640-8314
 和歌山市神前405-3
 TEL 073-473-2301
 FAX 073-473-2302
 発行責任者
 中澤敏浩

第57期県連解放学校

第57期解放学校 全水90周年と女性差別について学ぶ

7月8日、和歌山市勤労者総合センターで第57回県連解放学校をひらき、執行委員、県委員、支部長、支部活動家など143人が参加した。

第1講「水平社90年の意義と部落解放運動の展望」と題して、大阪市立大学非常勤講師・(社)部落解放人権研究所運動理論部副部長の谷元昭信さんを講師として迎え、学習を深めた。

講演では、私と和歌山県連の付き合いは70年代からで、和歌山県連再建大会に行動隊として参加したことがきっかけとなった。今年には全国水平社結成90年を迎

えたがその半分は運動にかかわってきた。1992年3月、京都の岡崎公会堂で全国水平社が結成され、戦争で中断した時期も含め先輩方とくみみ90年つづいてきたが、いまだ部落差別がなくならない。これからも反差別運動と部落解放運動をしっかりと捉えていかなければならない。その基礎となるのが水平社宣言であり、90年もの長きにわたって

一貫した運動がつづいていっているものは少なく、この運動は人間にたいするやさしさの運動であると語った。また、部落差別が残っている3つの要因について、1つは「家思想・穢れ思想・浄穢思想」という差別思想で、明治期

になると優生思想なども加わって社会意識として表れる。2つめは昨年発覚した戸籍謄抄本等不正取得事件からもわかるように、家意識という社会問題である。部落問題は部落のなかに問題があるのではなく、部落を排除しようとする社会構造に問題がある。私たちは部落解放運動を通じて培ってきたとくみみとして

「福祉・教育・就労」などの得意分野がある。困難をかかえたすべての人の問題解決のしくみへと拡大させていかなければならないと語った。第2講は、「女性差別撤廃条約と解放運動」と題し



90年間の解放運動について語る谷元昭信さん



解放運動と女性差別について語る塩谷幸子さん

解放運動のなかで

女性部の活動では全国集會などでさまざまな取り組みを知った。識字の問題では、福岡の炭鉱に勤めていた女性が「文字を知らなければ不便な事ばかり」とみかん箱を机に勉強したこと

の発表を聞いて大阪でも識字の活動のきっかけとなった。また、保育の運動では女性が子どもを迎えに行くのが当たり前という意識が地域のなかにもある。男女平等を言っているが活動家でも子どもが病気になるって保育園に迎えに来いと電話がある、女性のほうが賃金が低いから仕事を休んで

行つてこいと言う男性がいる。有名な企業の求人情報に女性では「ブス・チビ・かっぺ・めがねお断り」とする差別的な表現が問題になったが、解放運動の活動家であっても女性差別撤廃条約を知らない男性がたくさんいることが悔しく思う。家事労働でも、男女問わず自分の事は自分ですることによって自立しなければならぬ。私には子どもが3人いるが3人も女で男の子を産まなかったことが悪いように言われた。

社会的に疎外されてきた女性の問題を中央本部に提起し、厚生労働省交渉でも生活保護費の男女格差の矛盾を追及してきた。11月25日は女性差別撤廃の日でパルリボンシンボルマークにしてとりにくんでいるのでセクハラの問題もとりくむべきであると語った。講演の最後に「女性差別は社会が創り出したもの。組織内でも十分議論して改善すべき点、反省すべき点をあらためていかなければならない」とスライドを交え男性参加者に訴える講話で会場が盛り上がった。

頑健

連日、暑い日が続いている。先日から政府は「今後のエネルギー政策」について、国民の意見を聴取するため、パブリックコメントの募集とともに、各地で公聴会を開催している。その席上、電力会社の管理職が「福島原発事故で放射能の影響で亡くなった人は一人もない」「政府は、原発のリスクを過大評価している」と発言し、大きな非難を浴びた。当然、原発推進の意見をもつ人もいると思うが、電力会社の管理職がいう言葉ではない▼福島原発事故で、故郷を奪われ帰郷のメドさえ立っていない多くの住民がいる。事故後の捜索活動で避難しないで行った高年齢者の餓死遺体が発見された。さらに「差別」まで起きている。こうした現実を前に、この発言に恐怖を感じる。その前の会場でも電力会社の役員が意見を述べていた。この事態に、電力会社は「やらせてはいない」と弁解。政府も弁解と改善の約束▼経済への影響、低コスト、利便性を主張し、生活への影響を宣伝(脅迫)する。そして、安全神話の復活まで...。しかし、原発の賛否以前に、時代は間違いなく脱原発の流れである▼国民の「脱原発」の声が加速度的に高まっている。環境は、すべての生命を育むかけがえのないものであり、地上にあるすべてのものに比べても「生命は尊い」のである。(S・I)